

4-4 社会との交流

一般市民の方々に科学の面白さ・意義を伝えるとともに、科学コミュニティの健全な発展を促すような相互交流を醸成するための取り組みは、ますます重要性を増している。分子科学研究所では、このようなアウトリーチ活動の一環として、他機関との連携・共同により国内の広い範囲をカバーする事業、および、岡崎の地域性を重視した事業という2つのタイプを実施している。前者としては、自然科学研究機構シンポジウムならびに大学共同利用機関シンポジウムがあり、後者は一般公開、分子科学フォーラム、岡崎市民大学講座等である。また、全国の中学・高等学校の団体から、個人の申し込みまで、見学者を受け入れている。

4-4-1 一般公開

2021年10月23日（土）に分子科学研究所一般公開2021「見えない世界見放題!! 分子研プライムで生配信」をオンラインで開催した。一般公開では初のオンライン開催である。岡崎コンファレンスセンター中会議室にスタジオを設営し、10時から16時の6時間、ノンストップでライブ配信を行った。事前に作成した動画を流し、YouTubeとニコニコ動画のチャットの質問に答えていく形式とした。その他、講演会、若手研究者座談会、プチサイエンスショーをライブで行った。リハーサルを入念に行ったため、ほぼトラブルなく時間通りに進み、無事配信を終えることが出来た。また、2チャンネルで配信したため、総視聴者数は約30,000人と多くの方にご視聴いただき、全国へアピールすることが出来たのではないと思う。その後、分子研公式YouTubeにアーカイブ動画をアップしているが、SNS等での告知効果もあり再生回数が一般公開当日の2倍（2021年12月1日時点）となっている。



回数	実施月日	入場者数
第11回	2006.10.21	2058人
第12回	2009.10.17	1346人
第13回	2012.10.20	1126人
第14回	2015.10.17	2600人
第15回	2018.10.20	3878人
第16回	2021.10.23	YouTube 再生回数; 2618回 ニコニコ動画来場者数; 26,964人 (10/23 一般公開終了時点)

4-4-2 分子科学フォーラム

当フォーラムは「分子科学の内容を他の分野の方々や一般市民にも知らせ、また、幅広い科学の話を分子研の研究者が聞き自身の研究の展開に資するように」との趣旨のもとに、1996年より実施されている。豊田理化学研究所と共催となっており、年度毎に年間計画を豊田理化学研究所の理事会に提出している。2008年度よりは、一般市民の方々に科学の面白さ・楽しさを伝える「市民一般公開講座」として新たに位置づけられ、2009年度には、一元的で効率的な活動の展開を目指して、広報室を中心とした実施体制の整備を進めた。この際、講演回数をこれまでの年6回から

4回に変更し、密度の高い講座を開講することで、より魅力的な『分子科学フォーラム』の実現を図った。COVID-19感染拡大後はオンライン開催に切り替えたが、開催時間、広報活動をターゲットに合わせ変更した結果、全国の社会人、大学生、高校生に参加いただけるようになり、参加人数もリアル開催よりオンライン開催の方が多い結果となった。

本年度の実施状況は以下の通り。(すべてオンライン開催)

回	開催日	テーマ	講演者	参加人数
128	2021. 6.11	宇宙における分子の進化と氷微粒子の役割	渡部 直樹 (北海道大学教授)	約 430 名 (累計 1,257 名)
129*	2021.10.23	宇宙の中のミクロ、ミクロの中の宇宙～はやぶさ2帰還試料のナノ有機物分析～	大東 琢治 (分子科学研究所助教)	約 240 名
130	2021.12. 3	人工光合成への挑戦～空気や水から価値ある分子を～	正岡 重行 (大阪大学大学院名誉教授)	約 340 名 (累計 1,174 名)
131	2022. 1.28	ウェルビーイング経営の本質～データが明かす新たな人・組織・社会と幸せ～	矢野 和男 (株)日立製作所フェロー、 (株)ハピネスプラネット代表取締役 CEO)	約 250 名 (累計 1,148 名)

*一般公開と同時開催

4-4-3 市民向けシンポジウム

(1) 自然科学研究機構シンポジウム

当シンポジウムは2006年より年2回のペースで実施され、下記のようにこれまでに計33回開催されている。

本シンポジウムに対する分子科学研究所の関与は次の通りである。第1回において、「21世紀はイメージング・サイエンスの時代」と銘打ったパネルディスカッション中で、岡本裕巳教授が「ナノの世界まで光で見えてしまう近接場光学」というタイトルで講演を行った。第2回目は、講演会全体の企画を分子科学研究所が中心となって行った(詳細は「分子研レポート2006」を参照)。第7回では、加藤晃一教授が自らの体験に基づいて「研究の醍醐味とは何か」を伝える講演を行った。第11回では、大峯巖所長(当時)が「水の揺らめきの世界：揺らぎと反応と生命」というタイトルで講演を行った。第14回は、再び講演会全体の企画を分子科学研究所が中心となって行った(詳細は「分子研レターズ68号」を参照)。第21回では、正岡重行准教授(当時)が「人工光合成への挑戦～植物に学ぶ分子デザイン～」というタイトルで講演を行った。2020年度の第30回は分子科学研究所が企画し、機構と名古屋市科学館の主催で「宇宙科学と生命科学の深～いつながり」と題したシンポジウムをオンラインで開催した。2021年度の第33回では、古賀信康准教授が「創って理解する 生命現象をつかさどる分子「タンパク質」」と題したオンライン講演を行った。

また、講演会の開催と併せて、展示コーナーを設けてビデオやパネルを用いた説明を行ってきている。常設展示室に設置されている可搬式のグラフィックパネルや模型を適宜利用するなど、展示内容のさらなる充実に努めている。合わせて、十分な説明要員を確保するために研究者の積極的な参加も促している。

今年度の実施状況は以下の通り。

回	開催日	テーマ	開催方法
32	2021. 8.21	生命科学とプラズマ工学がつくる未来	オンライン開催
33	2022. 3.13	宇宙と、分子と、私たち	オンライン開催

(2) 大学共同利用機関シンポジウム

本シンポジウムは、自然科学研究機構を含む4つの大学共同利用機関法人を構成する19の研究機関と宇宙科学研究所が、総合研究大学院大学と合同で開催したものである。各研究機関が「知の拠点群」として果たしている役割と、研究の推進を通じて切り拓かれた科学の広大なフロンティアの現状について、広く一般市民の方に紹介することを目指している。分子科学研究所はブース展示に参加し、先端的研究成果や分子科学に関連する基本事項の解説を行っている。例えば、常設展示室に設置されている920MHz NMRの半立体模型（第2回）、大型スクリーンに投影したスーパーコンピュータによるシミュレーションCG（第3回～第9回）、および各種の大型分子模型（第4回～第10回）、研究者トーク（第6回～第9回）等を通じて研究活動に関する詳しい説明を行った。2021年度も前年に引き続きオンライン開催となり、分子科学研究所は研究所紹介CM動画を配信し、またシンポジウム特設サイト内に分子研紹介ページを掲載した。

実施状況は以下の通り。（中期計画第3期）

回	開催日	テーマ	会場／開催方法
7	2016.11.27	研究者に会いに行こう！ —大学共同利用機関博覧会—	アキバ・スクエア
8	2017.10. 8	研究者に会いに行こう！ —大学共同利用機関博覧会—	アキバ・スクエア
9	2018.10.14	最先端研究大集合	名古屋市科学館
10	2019.10.20	宇宙・物質・エネルギー・生命・情報・人間文化 その謎に挑む	日本科学未来館
11	2020.10.17,18	宇宙・物質・エネルギー・生命・情報・人間文化： オンラインで研究者と話そう	オンライン開催
12	2021.10.24	宇宙・物質・エネルギー・生命・情報・人間文化 フロントの知を楽しもう	オンライン開催

4-4-4 見学者受け入れ

自然科学研究機構岡崎3機関の見学者の受け入れは、岡崎統合事務センター総務部総務課企画評価係が窓口になって行われており、その中で分子科学研究所の見学分については、研究力強化戦略室が中心となってその対応にあたっている。2010年5月に展示室を開設し、個人の見学受け入れを開始した。年間およそ300名が来訪している。2021年度は少人数で強い希望があり、感染状況が落ち着いていることを条件として受け入れた。

見学申込み

（中期計画第3期）

年度	団体申込（施設見学＋展示室見学）			個人申込 （展示室）	見学者総数
	団体数	見学者数	実施機関名	見学者数	
2016	9	281	愛知県弁護士会 東国大学附属女子高等学校（韓国）ほか	18	299
2017	14	306	静岡県立榛原高等学校 宇宙航空研究開発機構（JAXA）ほか	25	331
2018	11	361	GENY 財団科学キャンプ（韓国） 浜松南高等学校ほか	29	390

2019	13	375	安城シルバーカレッジ 開成学園理化学部 ほか	6	381
2020	0	0	該当なし	0	0
2021	3	65	大阪府立富田林高等学校（オンライン）、岡崎市立三島小学校、岡崎市立北中学校（職場訪問）	0	65

4-4-5 その他

(1) 岡崎商工会議所（岡崎ものづくり推進協議会）との連携

岡崎商工会議所は、産学官連携活動を通じて地元製造業の活性化と競争力向上を目的に「岡崎ものづくり推進協議会」を設立し、多くの事業を行っている。この協議会と自然科学研究機構岡崎3研究所との連携事業の一環で、協議会の会員である市内の中小企業との交流会を2007年度に開催し、この交流会によって出来あがった協力体制は現在も継続している。また岡崎商工会議所主催で隔年開催される「岡崎ものづくりフェア」へ大学・研究機関として展示ブースを設けて参加している。

(2) 岡崎市観光協会との連携

2018年より岡崎市観光協会と連携を開始し、各種市民向けのイベント等で相互に協力することで、市民への広報活動がより活発に行えるようになっている。

実施日	内容
2018.10.20	一般公開 キッチンカーのご提供
2019. 6.13	岡さんぽ（岡崎市観光協会主催のイベント）への協力
2019.10.11	岡さんぽ（岡崎市観光協会主催のイベント）への協力